



Introducing my town

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県土浦市です。筑波銀行本店営業部長 助川喜昭が土浦市長 安藤真理子氏にお話を伺いました。

新たなにぎわいの呼び起こしと 未来を見据えたまちづくり

土浦市は、霞ヶ浦や筑波山麓の自然に恵まれた水郷筑波国定公園の玄関口に位置し、国指定遺跡の上高津貝塚、「続日本100名城」に認定された土浦城址と城下町の風情が残る、歴史と文化の香り漂うまちです。また、日本有数の花火競技大会である「土浦全国花火競技大会」の開催地として知られており、さらに2019年11月には、「つくば霞ヶ浦りんりんロード」がナショナルサイクルルートに指定されるなど、歴史・文化・スポーツなどの多彩な魅力があふれています。

私は、生まれ育ったこのまちが大好きです。進学のため一旦は本市を離れましたが、出産を機に戻ってきました。子どもにも私の大好きなこのまちで育ってほしいと考えたからです。その後、

介護事業を立ち上げ、ケアマネージャー（介護支援専門員）の資格を取得し、高齢者福祉のプロとして現場に携わってきました。

2007年からは、土浦市議会議員と県議会議員をそれぞれ2期ずつ務め、2019年11月に土浦市長に就任し、今年の11月で3年目を迎えます。

私が市長を目指したのは、県議会議員になって県全体から本市を見たときに、本市の魅力が十分に伝わっていないことに気が付いたからです。私は市長として、本市の魅力ある地域資源に磨きをかけ、新たなにぎわいを呼び起こすとともに、地元の子どもたちにも本市の魅力を感じてもらい、未来につないでいきたいと考えています。

民間と協力した 「自転車のまち土浦」づくり

新たにぎわいづくりとして現在力を注いでいるのは「サイクルツーリズム」です。本市は、総延長約180kmの「つくば霞ヶ浦りんりんロード」の中央に位置します。JR常磐線土浦駅東口は霞ヶ浦に面しており、ヨットハーバーが降車客を出迎える最高のロケーションです。駅ビルの再開発では、全国初の鉄道駅直結サイクリング拠点「りんりんスクエア土浦」に加え、愛車（自転車）を持ち込んで宿泊できる「星野リゾートBEB5 土浦」がオープンし、サイクリストには至れり尽くせりの環境が整いました。JR東日本様、星野リゾート様には、サイクリングのイベントを開催していただいております、大変感謝しています。

また本市では、霞ヶ浦湖畔にサイクリストの憩いの場となる施設「りんりんポート土浦」を整備するとともに、霞ヶ浦周辺自治体と連携し、サイクリングとクルージングを組み合わせた「霞ヶ浦広域サイクルーズ」を実施しています。この霞ヶ浦広域サイクルーズは、遊覧船に自転車を乗せて希望する寄港先で下船し、そこからサイクリングを楽しむものです。自転車での走行距離を選べるため、初心者の方でも気軽に参加することができると、ご好評をいただいております。

さらに市内では、サイクリストを優待するサービスを提供する飲食店や物産店、ホテルなどが増えており、民間と行政の協力による「自転車のまち土浦」づくりが盛り上がってきています。



霞ヶ浦湖畔から夕日を望むサイクリスト



「りんりんポート土浦」

「ママになるなら土浦市」 「こども未来部」の創設



「こども未来部」創設テープカット式



子育て支援

2021年4月、子ども・子育てに関する部署を再編して一つにまとめた「こども未来部」を創設しました。核家族化、共働き世帯の増加、地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境が多様化する中で、医療、福祉、教育などのさまざまなニーズや相談に柔軟に対応し、安心して子どもを産み育てられる環境整備を進めています。政府では、「子ども庁」の創設に向けて検討を始めているところであり、本市は一步先を進んでいると自負しています。

本市の子育て支援は、すでにとっても充実しているのですが、残念なことにあまり知られていません。市民の中には「よく調べたら土浦市の支援が充実しているので転入してきた。」という方もいます。

こども未来部では、「ママになるなら土浦市」をスローガンとし、本市の子育て支援策を分かりやすく「見える化」して広くPRしていきます。そして、十分に利用していただくことで、子育て世帯の転出を減らすとともに、転入の増加につなげていきたいです。

「あたたかさあふれる」 福祉のまちをもっとPR

国は現在、自治体に対して「地域包括ケアシステム」の構築、強化を求めています。これは、高齢者が住み慣れた地域で、自らの能力に応じて出来る限り自立した生活を送ることができるよう、医療、介護、介護予防、住まいおよび自立した日常的支援を包括的に提供する体制づくりとその強化を指します。

この動きが盛んになってきたのは2010年代からのことですが、本市では、1980年代から類似の枠組みを作って取り組んできました。そのため先進的な事例として何度も取り上げられており、高齢者福祉の分野では有名です。しかし、ほとんどの市民はこの事実を知らず、また市外にもあまり伝わっていません。

本市は、地域福祉がとても充実しているまちです。私の市政の目標である「あたたかさあふれるまちづくり」に向けて着実に進んでいます。私は、こうした本市の魅力も積極的にプロモーションしていきたいと考えています。

企業訪問を継続し、 地元企業に必要な支援を



本店営業部長 助川喜昭

大きな雇用を生み出す企業誘致は非常に重要な政策ですが、基礎自治体の長である私としては、現在市内に拠点を置き、長年本市の経済を支えていただいている企業を大切にするこのほうが、より重

要なことだと思っています。

そこで私は、市内の企業を訪問し、悩みや意見を聞く活動を行っています。現場の臨場感が伝わってくる中で色々なお話を伺うことで、本当に必要な支援は何かを考えています。



土浦市長 安藤真理子氏

現状では新型コロナウイルス感染症対策が中心となっており、2020年度から計14回の緊急経済対策を講じてまいりました。現在の企業支援としては、「茨城県事業者支援一時金」の受給

対象者への上乗せ給付を行う「土浦市事業者一時金給付事業」、1万円で2万円分の商品券が買える「コロナに負けるな！応援チケット」を実施しています。この商品券のうち8,000円分は「特別応援券」となっており、特にコロナの影響が深刻な業種の加盟店に限定して使用できるものです。

今後も企業訪問により現場の声を聞きながら、市内企業がコロナ禍から立ち上がっていくために必要な支援を実施してまいります。

筑波銀行に期待すること

2020年からの新型コロナウイルス感染症対策において、多くの企業への融資を迅速に対応していただいております。また、「寄贈サービス付SDGs私募債『地域の未来応援債』」は、学校や福祉施設に対する空気清浄機や衣類乾燥機などの寄付につながっており、大変喜ばれています。

助川部長もおっしゃっていましたが、歴史の深い本市には、長年地元を支えてきた優良な企業が沢山あります。私も企業訪問を続けていきますが、経営を診るプロである銀行の立場から、いろいろなアドバイスをいただきたいと思います。

また、これからも地元の銀行として、一緒に本市の経済活性化やまちづくりに取り組んでいただきたいと思います。

取材日：2021年8月25日